

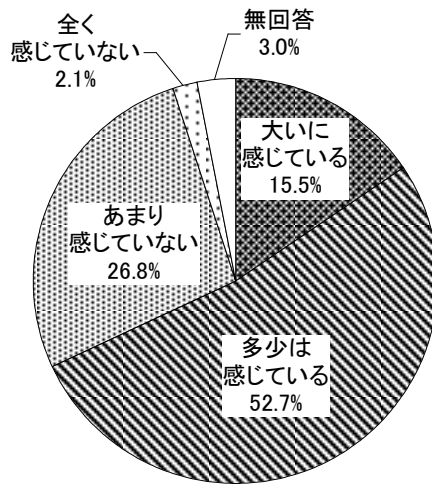
11 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

問28 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

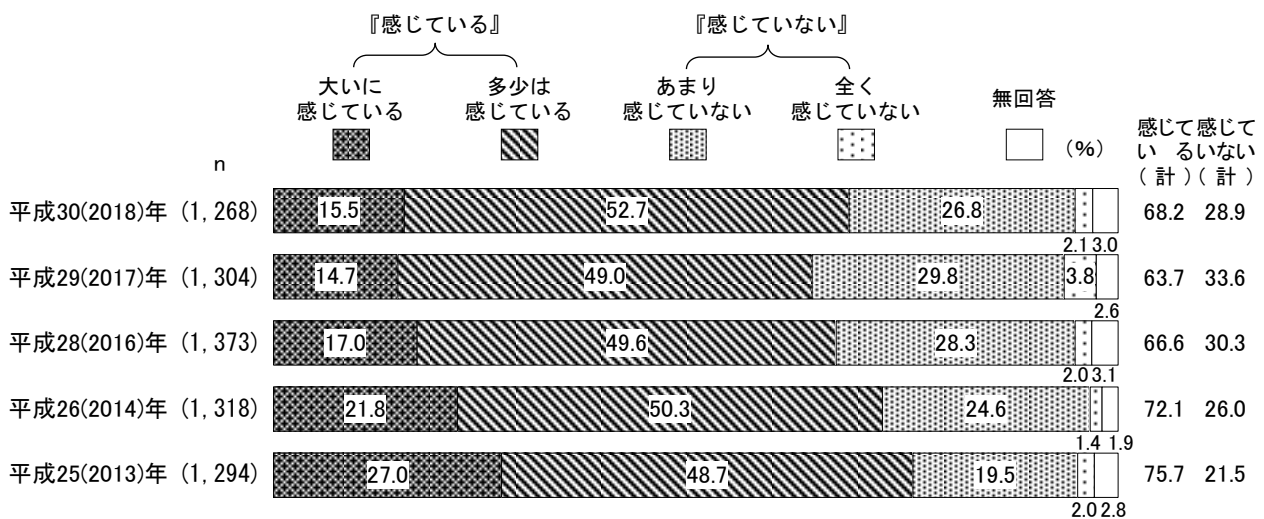
[n=1,268]

1	大いに感じている	15.5%	3	あまり感じていない	26.8%
2	多少は感じている	52.7%	4	全く感じていない	2.1%
				(無回答)	3.0%



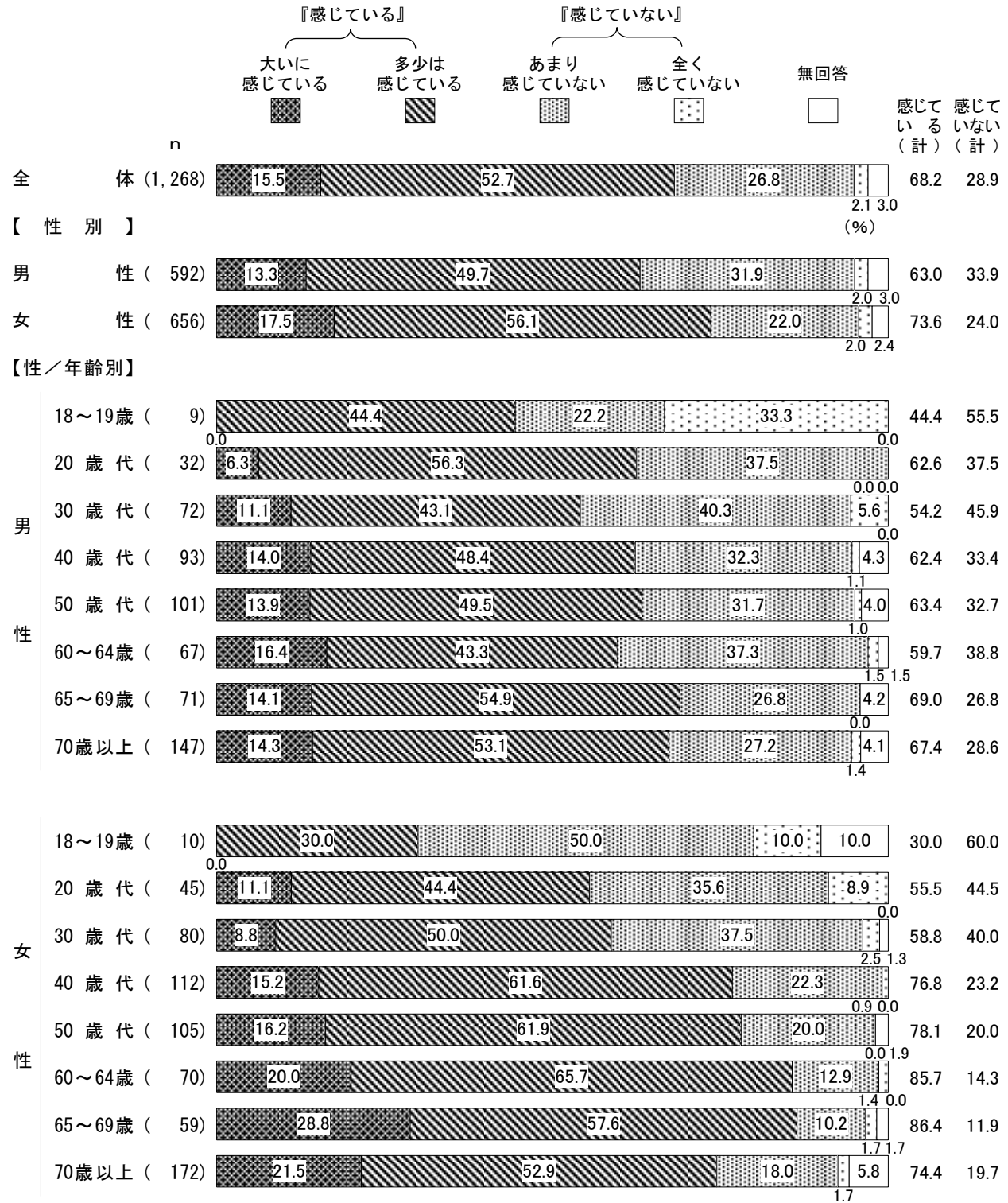
(n=1,268)

全体で見ると、「大いに感じている」(15.5%)と「多少は感じている」(52.7%)の2つを合わせた『感じている』(68.2%)は7割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(26.8%)と「全く感じていない」(2.1%)の2つを合わせた『感じていない』(28.9%)は3割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『感じている』が平成29(2017)年より4.5ポイント増加している。一方、『感じていない』が平成29(2017)年より4.7ポイント減少している。

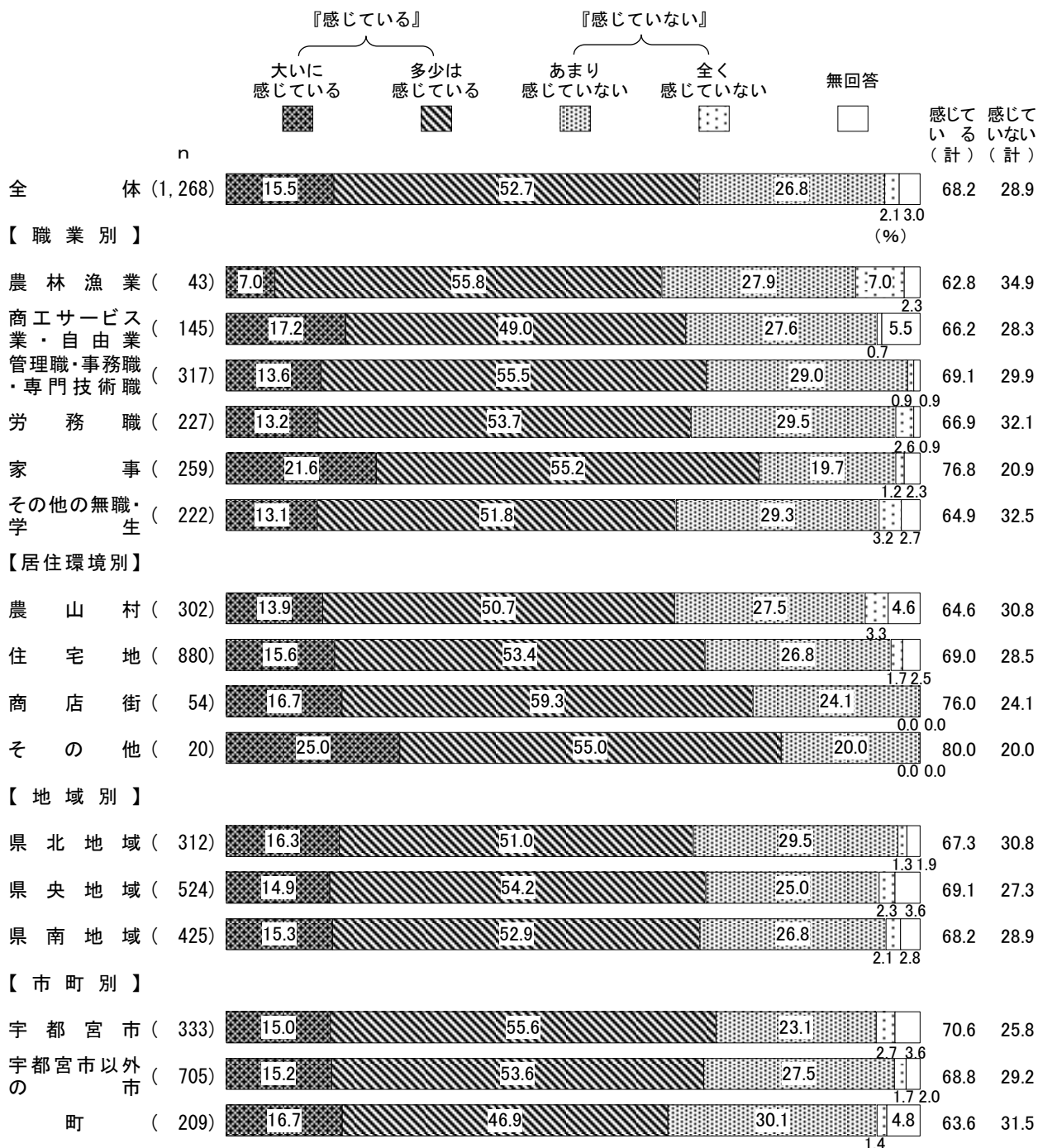
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(73.6%)が〈男性〉(63.0%)より10.6ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(33.9%)が〈女性〉(24.0%)より9.9ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『感じている』では〈女性65~69歳〉が86.4%、〈女性60~64歳〉が85.7%、〈女性50歳代〉が78.1%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性30歳代〉が45.9%、〈女性20歳代〉が44.5%、〈女性30歳代〉が40.0%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別・市町別】



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉が76.8%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈農林漁業〉が34.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』では〈商店街〉が76.0%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、『感じている』では〈宇都宮市〉が70.6%と高くなっている。

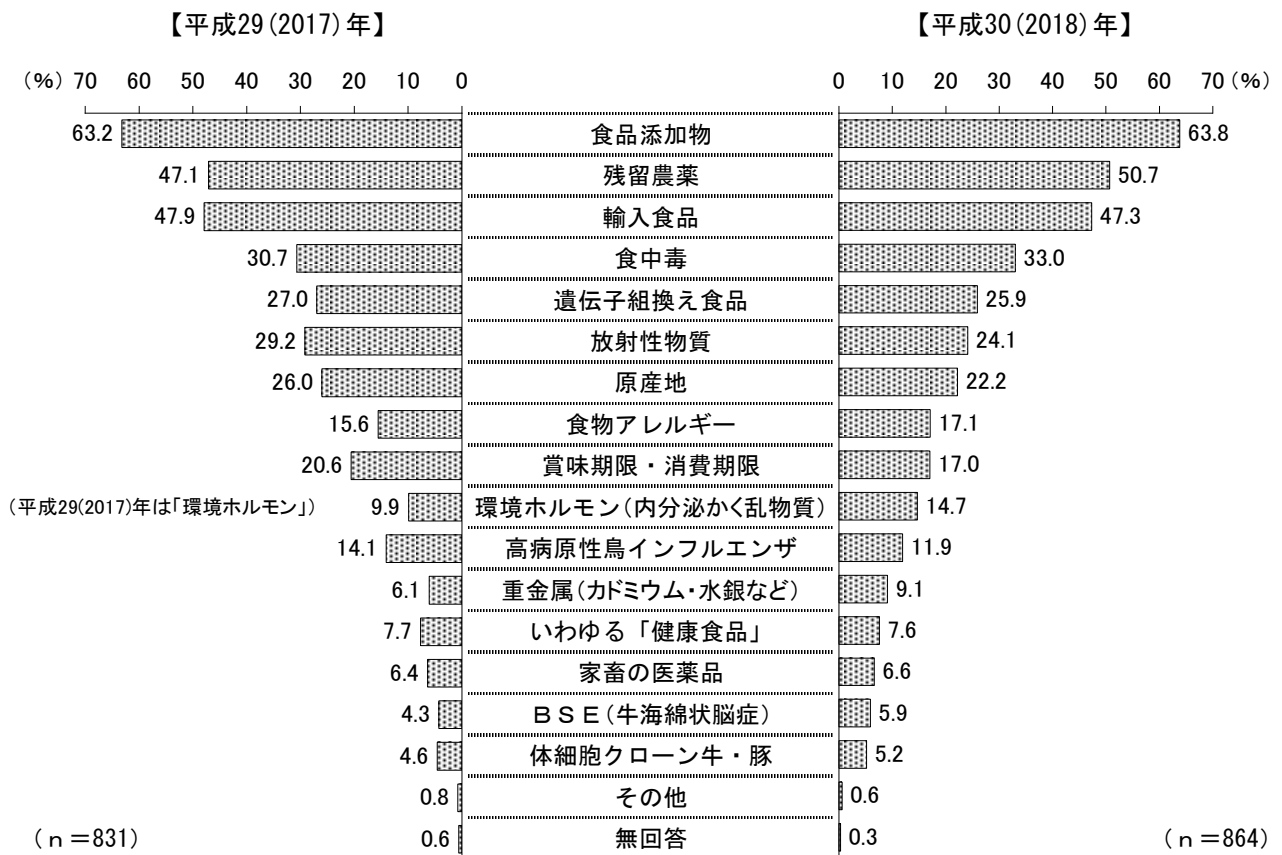
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問28で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問28-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。

[n=864]

1	残留農薬	50.7%	10	重金属（カドミウム・水銀など）	9.1%
2	食品添加物	63.8	11	食中毒	33.0
3	環境ホルモン（内分泌かく乱物質）	14.7	12	いわゆる「健康食品」	7.6
4	遺伝子組換え食品	25.9	13	原産地	22.2
5	BSE（牛海綿状脳症）	5.9	14	輸入食品	47.3
6	高病原性鳥インフルエンザ	11.9	15	賞味期限・消費期限	17.0
7	体細胞クローン牛・豚	5.2	16	放射性物質	24.1
8	食物アレルギー	17.1	17	その他	0.6
9	家畜の医薬品	6.6		（無回答）	0.3

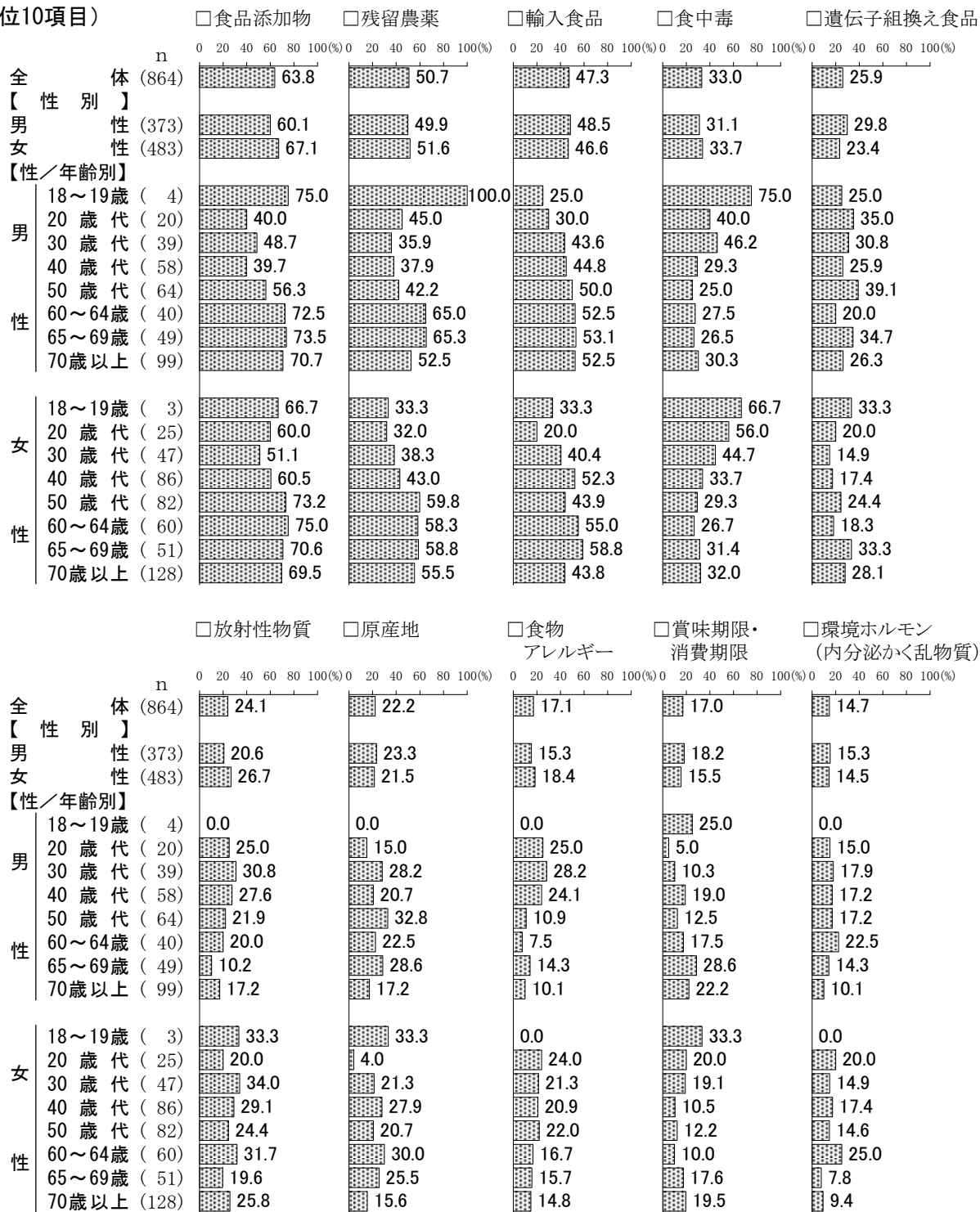


全体で見ると、「食品添加物」(63.8%)が6割を超えて最も高く、次いで「残留農薬」(50.7%)、「輸入食品」(47.3%)、「食中毒」(33.0%)、「遺伝子組換え食品」(25.9%)の順となっている。

平成29(2017)年の調査結果と比較すると、「環境ホルモン(内分泌かく乱物質)」は4.8ポイント、「残留農薬」は3.6ポイント、「重金属(カドミウム・水銀など)」は3.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「放射性物質」は5.1ポイント、「原産地」は3.8ポイント、「賞味期限・消費期限」は3.6ポイント、それぞれ減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

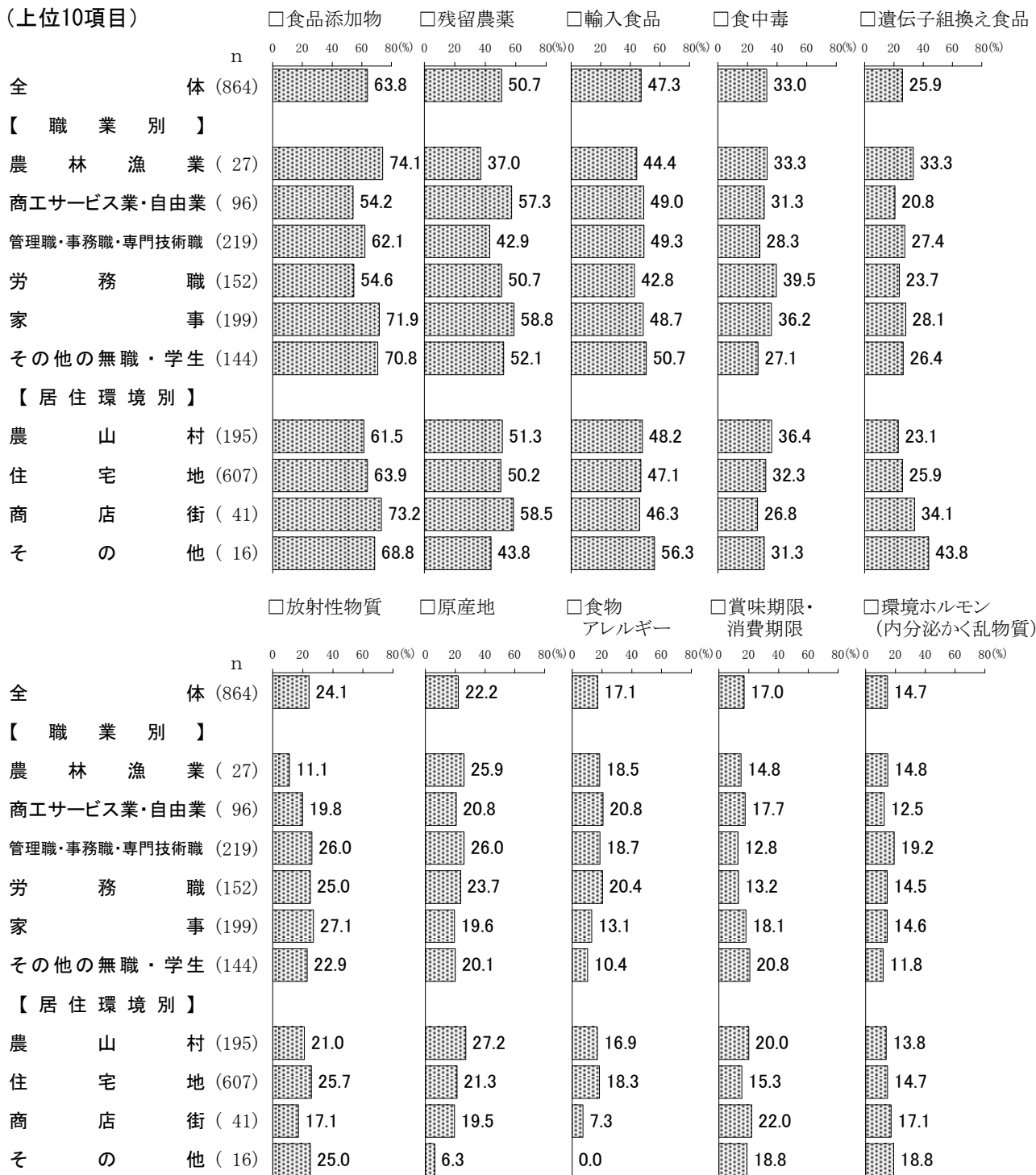


性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(67.1%)が〈男性〉(60.1%)より7.0ポイント高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈男性〉(29.8%)が〈女性〉(23.4%)より6.4ポイント高くなっている。「放射性物質」では〈女性〉(26.7%)が〈男性〉(20.6%)より6.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性60~64歳〉が75.0%、〈男性65~69歳〉が73.5%、〈女性50歳代〉が73.2%と高くなっている。「残留農薬」では〈男性65~69歳〉が65.3%、〈男性60~64歳〉が65.0%と高くなっている。「輸入食品」では〈女性65~69歳〉が58.8%と高くなっている。「食中毒」では〈女性20歳代〉が56.0%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈男性50歳代〉が39.1%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]

(上位10項目)



職業別でみると、「食品添加物」では〈農林漁業〉が74.1%、〈家事〉が71.9%、〈その他の無職・学生〉が70.8%と高くなっている。「残留農薬」では〈家事〉が58.8%、〈商工サービス業・自由業〉が57.3%と高くなっている。「食中毒」では〈労務職〉が39.5%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈農林漁業〉が33.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、「食品添加物」では〈商店街〉が73.2%と高くなっている。「残留農薬」では〈商店街〉が58.5%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈商店街〉が34.1%と高くなっている。

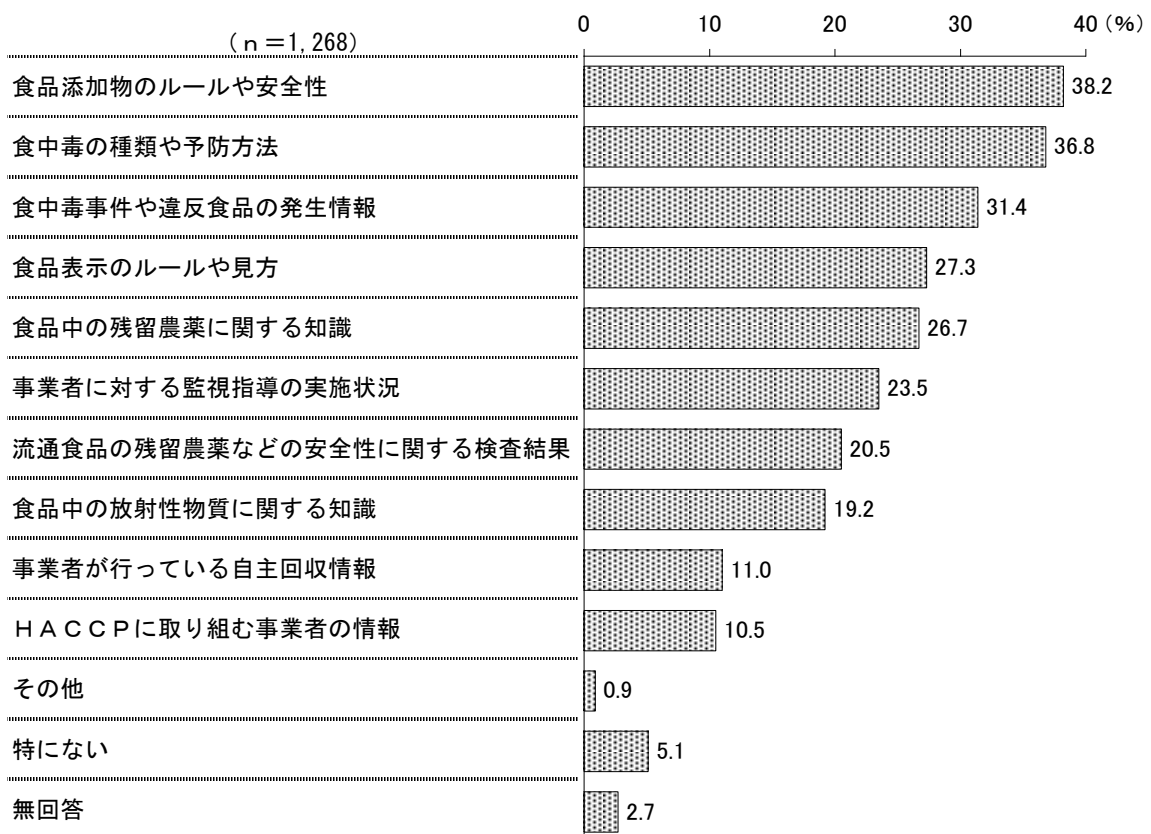
(2) 県から発信してほしい食の安全・安心に関する情報

問29 県では、食の安全・安心に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが、県から特に発信してほしい内容は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,268]

1	食中毒の種類や予防方法	36.8%	8	食中毒事件や違反食品の発生情報	31.4%
2	食品添加物のルールや安全性	38.2	9	事業者が行っている自主回収情報	11.0
3	食品中の残留農薬に関する知識	26.7	10	HACCP(※)に取り組む事業者の情報	10.5
4	食品中の放射性物質に関する知識	19.2	11	その他	0.9
5	食品表示のルールや見方	27.3	12	特になし	5.1
6	事業者に対する監視指導の実施状況	23.5		(無回答)	2.7
7	流通食品の残留農薬などの安全性に関する検査結果	20.5			

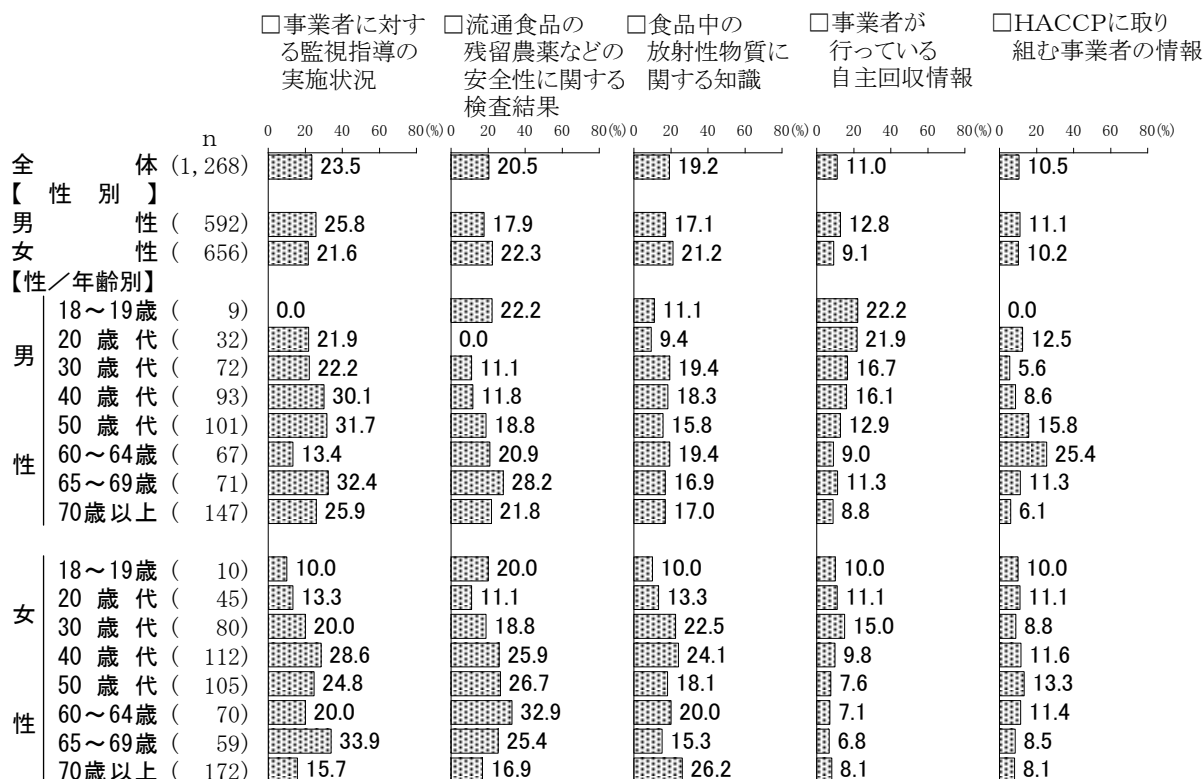
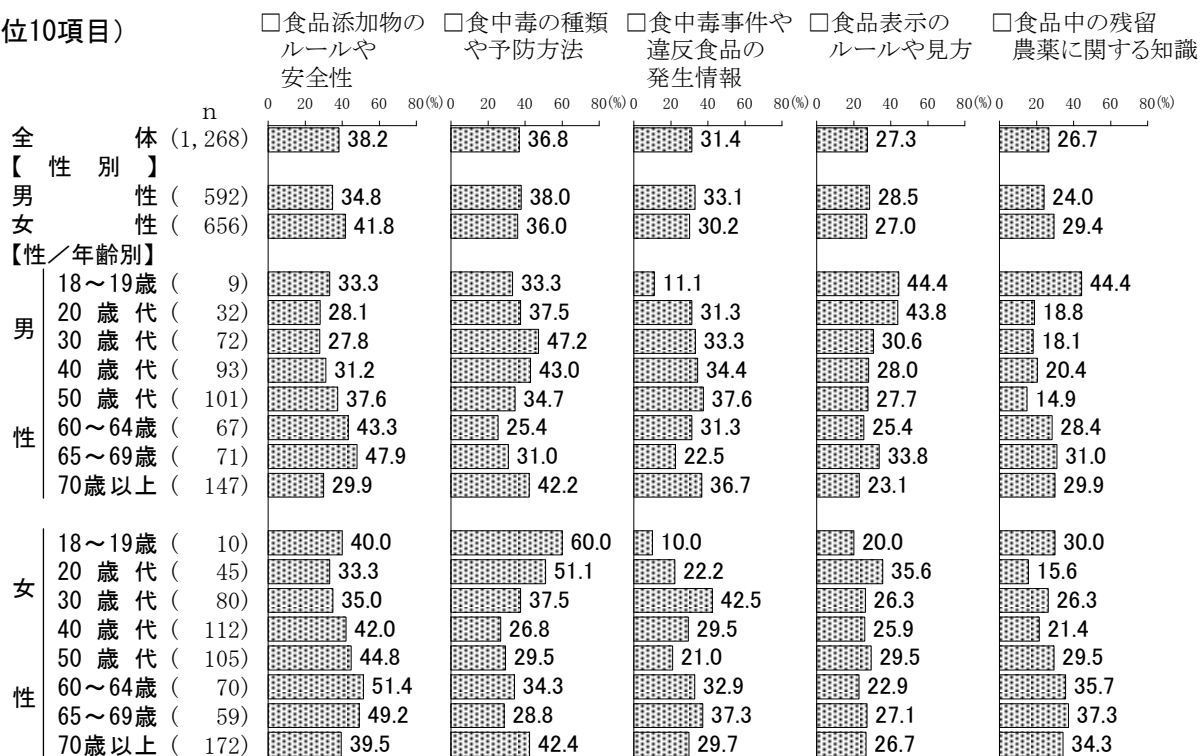
※ HACCP (ハサップ) とは、食品の安全性を確保するための衛生管理の手法で、国際標準となっています。



全体で見ると、「食品添加物のルールや安全性」(38.2%)と「食中毒の種類や予防方法」(36.8%)がともに4割近くで高く、次いで「食中毒事件や違反食品の発生情報」(31.4%)、「食品表示のルールや見方」(27.3%)、「食品中の残留農薬に関する知識」(26.7%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

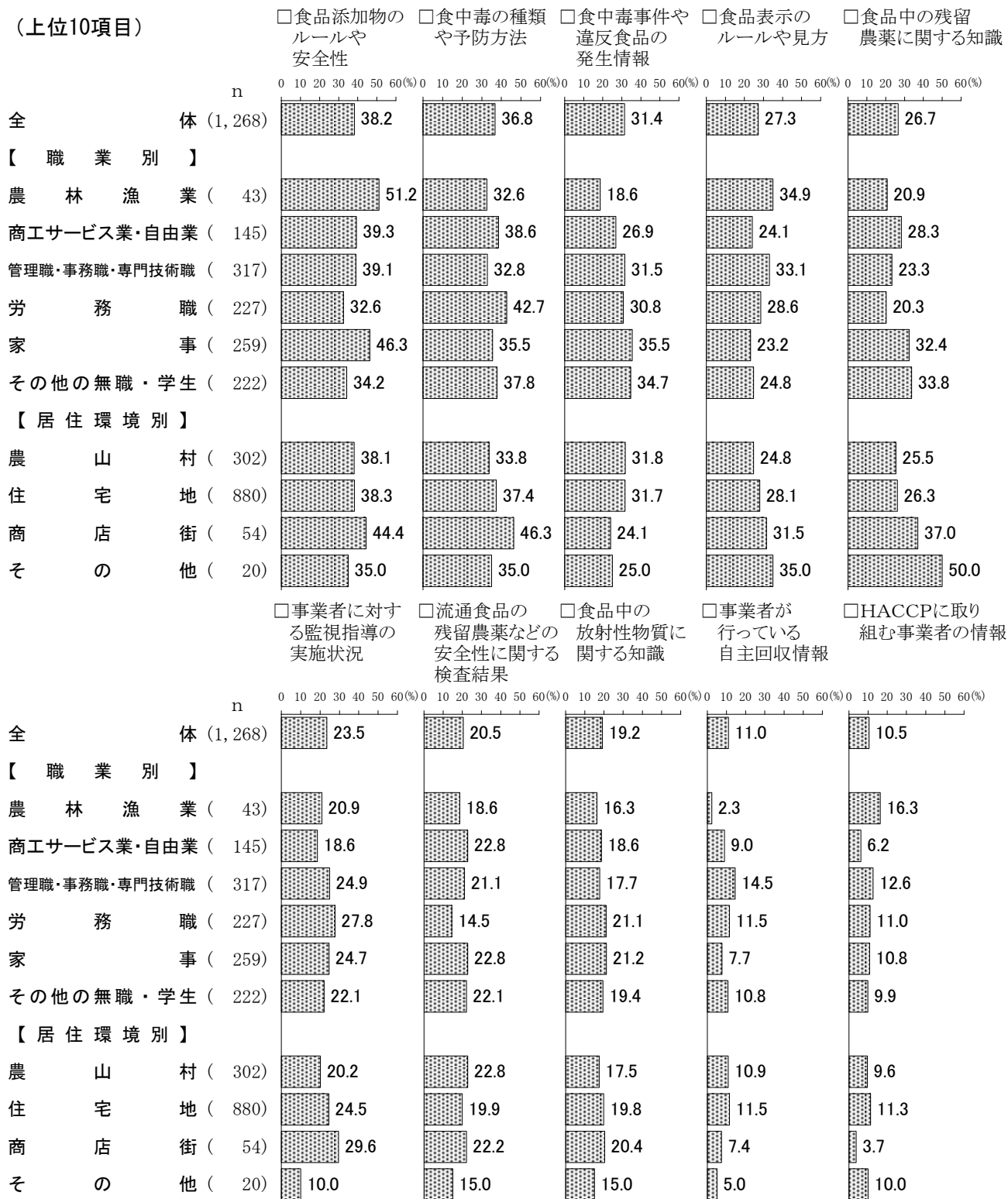


性別でみると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性〉(41.8%)が〈男性〉(34.8%)より7.0ポイント高くなっている。「食品中の残留農薬に関する知識」では〈女性〉(29.4%)が〈男性〉(24.0%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性60~64歳〉が51.4%、〈女性65~69歳〉が49.2%と高くなっている。「食中毒の種類や予防方法」では〈女性20歳代〉が51.1%と高くなっている。「食中毒事件や違反食品の発生情報」では〈女性30歳代〉が42.5%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]

(上位10項目)



職業別でみると、「食品添加物のルールや安全性」では〈農林漁業〉が51.2%、〈家事〉が46.3%と高くなっている。「食中毒の種類や予防方法」では〈労務職〉が42.7%と高くなっている。「食品表示のルールや見方」では〈農林漁業〉が34.9%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が33.1%と高くなっている。「食品中の残留農薬に関する知識」では〈その他の無職・学生〉が33.8%、〈家事〉が32.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、「食品添加物のルールや安全性」では〈商店街〉が44.4%と高くなっている。「食中毒の種類や予防方法」では〈商店街〉が46.3%と高くなっている。「事業者に対する監視指導の実施状況」では〈商店街〉が29.6%と高くなっている。